

議 事 要 旨

議 事 要 旨	
会 議 名	徳島県がん診療連携協議会 診療連携部会
日 時	平成29年11月27日(月) 19:00~21:00
場 所	徳島大学病院大会議室 (中央診療棟5階)
出 席 者	滝沢会長、金山部会長、福森委員、広瀬委員、石倉委員、日野委員、漆川委員、吉田委員 木下委員、寺嶋委員、水口委員、居村委員、六車委員、中東委員、鎌村委員 川崎氏(代理)、近藤肺がん部会長(代理)、鳥羽医師(肺がん部会)
欠席者	住友委員、林委員、田中委員、坂東委員、藤原委員、西村委員、岡久委員、山口委員
陪 席	徳島大学病院医事課：小林副課長、古田専門職員、宮越事務補佐員 徳島大学病院：鈴木副看護部長 健康増進課：平田課長補佐、前田係長 徳島赤十字病院：島村氏、徳島県立三好病院：久米氏、 徳島県立海部病院：井内氏、垣内氏
<p>【議題1】 各がんの診療連携の状況について</p> <p>最初に、金山徳島県がん診療連携協議会 診療連携部会長（以下、金山部会長という。）司会進行のもと、徳島県がん診療連携協議会 診療連携部会が開催された。開催にあたり、徳島県がん診療連携協議会滝沢会長から挨拶があった。</p> <p>1. 徳島県生活習慣病管理指導協議会の各がん部会より報告があった。</p> <p>①肺がん部会：住友委員が欠席のため代理で近藤肺がん部会長から肺がん部会の報告があった。診療連携について医療機関とは連携が出来ているが、がん治療連携計画策定料の件数も少なく、肺がん治療の記録ノート配布についても少ない。治療の記録ノートについても各病院から複雑であるとの意見もあり、改訂版を作成する予定であるとの報告があった。</p> <p>②乳がん部会：日野委員から、徳島大学病院は乳がんについてはがん治療連携計画策定料算定、治療の記録ノート配布についてもどのがん腫よりも多くの件数がある。また、徳島市民病院では今年から乳がん看護認定看護師が誕生したことから、治療の記録ノートを活用して説明を行っており、90冊程度の配布が出来ている。乳がんに関してはホルモン療法について概ね連携が出来ているが、抗がん剤・経過観察については難しいのが現状であるとの報告があった。</p> <p>③胃がん部会：六車委員から、胃がん部会として診療連携について報告事項・審議事項は特になかった。また、来年1月に胃がん部会が開催されることから、診療連携について推進していきたいとの報告があった。</p> <p>④大腸がん部会：岡久委員が欠席のため、報告書を金山部会長から代弁を行った。現在、県内での治療の記録ノートの活用は一部の施設のみで、十分に活用されておらず、今後の課題を継続検討している。また、大腸がん検診票の改定を行うとともに紹介状なしで県内の医療機関で大腸がん検診の精密検査を受診可能なことを確認した。さらに、検診受診率の向上を目指した新しいシステム構築を検討しているとの報告があった。</p> <p>⑤肝がん部会：居村委員から、がん治療連携計画策定料や治療の記録ノートの配布についてはほとんど活用されていないのが状況である。現在は肝炎患者の拾い上げでなく、治療の実施の推進を行っている。県・市とも協力しながら肝炎検査の案内を行い推奨していきたいとの報告があった。</p>	

⑥子宮がん部会：西村委員が欠席のため報告がなかった。

⑦前立腺がん：金山部会長から、前立腺がんに関してがん治療連携計画策定料の加算はまだ少ない。治療の記録ノートの活用については配布が増えてきている。各医療機関との連携は出来てきているが算定が出来ていないのが現状であるとの報告があった。

⑧食道がん：委員欠席のため、報告無し。

金山部会長から、今年度は乳がん・食道がんについて連携パスの項目を一部変更したとの報告があった。

寺嶋委員から、先日行われた「医師・医療関係者とがん患者会等との災害研修会」でも話題となったが、災害時に治療の記録ノートやお薬手帳を持って逃げる方はほとんどいないのではないかと。名刺サイズのカードに記録が入るようなシステムを構築していかなければいけないのではないかと意見があった。

川崎代理から、患者の声としては内容が理解しづらいとの意見があり、簡単明瞭に改善をお願いしたいとの要望があった。

広瀬委員から、災害時に手帳等の持ち出しは難しい。最近はスマホ等があるため携帯は持ち出す方が多い。写真などで撮影してデータで記憶しておけばいいのではないかと意見があった。

金山部会長から、治療の記録ノートには色々な情報が記載できるため内容的にはいいのではないかと。しかし、携帯で撮影するのであればよい情報ではないかと意見があった。

【議題2、議題3】 各拠点病院における地域連携クリティカルパスの活用状況、手帳の運用状況について

各拠点病院から、別紙資料7に基づき連携保険医療機関届出施設数とがん治療連携策定料加算件数の報告があった。

① 徳島大学病院福森委員から、がん治療連携計画策定料加算件数は平成24年4月から算定を開始しており、平成29年度は充分とはいえないが乳がんに関しては毎月算定ができています。食道がん・前立腺がんについても算定ができています。がん患者指導管理料1、2に関しては平成26年4月から算定を開始しており、平成29年度は緩和ケアセンターに3名の看護師と今年度4月からがん放射線看護認定看護師が配属されたことにより増加傾向である。外来がん患者在宅連携指導料については平成28年4月より新設された。医師からの依頼のもと、がん相談支援センター相談看護師・緩和ケアセンター看護師・MSWらと連携しながら算定を行っているとの報告があった。手帳の運用については様々なセミナーなどでも配布を行い、診療科でも昨年の倍近く配布を行っている。連携保健医療機関については、紹介いただいた医療機関やまだ連携医療機関になっていただいていない連携施設に依頼を行ったりしている。毎年、連携保健医療機関は増えてきているとの報告があった。

② 徳島県立中央病院広瀬委員から、連携保険医療機関数は少しずつ増えてきている。なかなか伸び悩んでいる原因については、連携医療機関が承諾していただかなければがん治療連携計画策定料が算定できない。治療の記録ノート配布については、診察時に持参していただく方は5～10%程度であるため改良していただきたい。がんの種類に関しては、前立腺がんもパスを作成して運用しているとの報告があった。

③ 徳島赤十字病院石倉委員から、連携保健医療機関に関しては事務を通じて依頼を行っているが件数が増えていない。がん治療連携計画策定料加算件数はほとんど算定できていない。治療の記録ノート配布については、配布出来ていないとの報告があった。

④ 徳島市民病院日野委員から、がん治療連携計画策定料加算件数は0件であった。治療の記録ノートの配布については、医師だけでは難しく今年から乳がん看護認定看護師が誕生したことから、乳がんの

配布を行っている。ただ、乳がん手帳の配布を行ってから5年目となり、毎回診察時に持参される方がいるが、毎回異常なしと記入するのみで意味がないのではないかと。患者さんが記入される方もいるため、その場合は診療時に役立つこともあるが、治療の記録ノートの前半部分だけでもいいのではないかと意見と報告があった。

金山部会長から、5年以上使用されている方の意見はどうかとの質問があった。

日野委員から、意見は聞いたことがないが持参される方は毎回持参されるが、個人として必要性がないのではないかと考えている。大切なのはどのようながん腫、手術、治療を行ったかを患者さん自身が持っているのには必要ではないか、携帯で撮影しておくのもいいのではないかと意見と回答があった。

近藤肺がん部会長から、肺がんの患者さんは半年毎にCTを徳島大学病院で行っている。その他、風邪等の気になるようなことはかかりつけ医に伝えて手帳に記入していただくようお願いしている。しかし、出来る限り使いやすい治療の記録ノートにしていくのがよいのではないかと意見があった。

- ⑤ 徳島県鳴門病院漆川委員から、医療連携については一方通行が多い。紹介をいただいても、その後開業医に戻らない方が多い。婦人科がんの方で再発のリスクが大きい方は、受入も難しいため連携できないのが現状である。なお、他院で他の治療を行いながら婦人科の経過観察を当院で行っているのが連携になるのではないかと報告があった。
- ⑥ 阿南共栄病院吉田委員から、がん診療としての連携はないというのが近い。阿南市内、上那賀、海部の患者さんが多く、手術後でも当院で経過を診られる方が多いとの報告があった。

寺嶋委員から、徳島県立三好病院ではがん治療連携計画策定料を算定できるよう事務が徳島県立中央病院に出向き、方法等を勉強し今後開始する予定で動いているとの報告があった。

金山部会長から、医師だけでは連携が難しいため、事務にも協力していただき院内の連携を行いながらしていく必要があるとの意見があった。

木下委員から、以前に徳島県医師会と連携についてセミナーを行っていただいたため、今後は治療の記録ノートの説明等も含めて勉強会を行っていただきたい。また、連携に手を上げている医療機関もあるため、拠点病院の外来の数をコントロールしていくためには連携も必要である。徳島県医師会も研修会等協力していきたいとの要望があった。

鎌村委員から、治療の記録ノートを配布するには医師だけではなく、院内で協力していただきたい。また、山間部の診療所に診察に出向いているが、患者さんで治療の記録ノートを持参された方はない。拠点病院へ定期的に通っている方やフォローアップされている方は、紹介状や逆紹介状で行っている方は多い。しかし、がんについては拠点病院、他の疾患は診療所で診ているが、診療の状況を聞いても忘れる方もあるため、治療の記録ノートを上手く運用すればかかりつけ医と患者さんのためにもよいのではないかと意見があった。

金山部会長から、受け手側の医師会の先生方の意見も取り入れながら、今後作成していきたいとの要望があった。

【議題4】徳島県がん診療連携セミナー開催報告について

金山部会長から、別紙資料「徳島県民がんフォーラム2017実施報告書」について報告があった。

- ① 平成29年9月10日(日)13：30～15：35徳島大学大塚講堂で徳島県がん診療連携協議会診療連携部会、情報提供・相談支援部会、緩和ケア部会が主催、徳島大学病院がん診療連携センターと徳島新聞社が共催で開催を行った。

- ②内容はがん対策、治療の記録ノート、緩和ケア、相談支援、就労支援等で行った。
- ③当日の総来場者は591人(事前申込が418人、当日受付173人)と非常に多数の参加があった。
アンケート結果は資料を参照。

金山部会長から、今後も徳島県がん診療連携協議会全体で徳島県民の方々に周知をする必要があることから、継続して毎年市民公開講座を行いたいとの要望があった。

【議題4】 その他(治療の記録ノート・肺がん手帳の作成)

鳥羽肺がん部会委員から、今年度治療の記録ノートの肺がん手帳がなくなり増刷するに伴い、大きさ・内容を改定したい。治療の記録ノートを薄く持ちやすく使いやすい手帳にしたい、お薬手帳と同じ大きさで作成を行いたい。また甲状腺がんの治療の記録ノートも現在はないため、新規作成を行いたい。甲状腺は内服薬を服用するため、ホルモン剤やカルシウム剤の記載をして作成を行いたいとの要望があった。

水口委員から、紙の質を変えてはどうか。紙が厚いためもっと薄くすればいいのではないかと意見があった。

金山部会長から、紙質については事務で検討していただきたいとの要望があった。

川崎委員から、医師が記入するページが多く、患者の記入するページが少ないのではないかと。私自身もがん患者であるが治療の記録ノートを持っていない。内容は非常によいため、使いやすくしていただきたいとの意見があった。

金山部会長から、内容は本当によく出来ている。多くの方が使用していただけるようにしていく方向で検討していただきたいとの要望があった。

近藤肺がん部会長から、肺がん部会で検討した結果、必要な内容だけを選んでページを薄くした。出来れば、他の疾患も一緒に記入していければいいが、なかなか難しいとの意見があった。

金山部会長から、医師会の先生方、患者さんの送り手側、受け手側の双方の意見を反映させながら作成を行っていききたいとの要望があった。

広瀬委員から、「私のカルテ」のようなファイルを他県では色々な疾患の情報をファイルで自己管理しているところもあるようであるとの情報提供があった。

滝沢会長から、先日徳島県民がんフォーラム2017を聴講し、福森医師の講演で二人主治医、手帳の話も聞き、治療の記録ノートをかかりつけ医に持参したところかかりつけ医が知らず、次回治療の記録ノートを出すのに勇気がいるとの意見を言われた患者さんがいた。医師会の先生方にも周知を行わなければいけないとの要望があった。

鎌村委員から、県医師会が中心となり、手帳については糖尿病の方は連携手帳を作成したりするなど、他疾患では色々と進んでいるため、普及していただけるようお願いしたい、との要望があった。

木下委員から、実験段階であるが小松島市医師会がカラーバーコードを利用した患者さん情報カードを使用しているとの情報提供があった。

鎌村委員から、治療の記録ノートの改善に向けて進んでいるが、この治療の記録ノートは現在、徳島県災害医療推進基金事業として基金を活用して作成している。災害のページを入れることにより、がん患者さんの災害時のためにとの目的でもある。毎年、継続して補助があるわけではないが、災害ページを入れていただくことにより基金の補助を利用出来るため入れていただきたい、との要望があった。

金山部会長から、基金を利用して作成しているため是非、災害ページを入れて作成をしていただきたいとの意見があった。

小林医事課副課長から、総務省の事業で徳島県内の病院や介護施設などで患者の診療情報などを共有

する医療介護連携ネットワーク『阿波あいネット』が来年4月から運用を開始することになり、徳島大学病院で参加の同意書の受付が始まった。『阿波あいネット』は県内全域の病院、診療所のほか介護施設、薬局、歯科診療所などの間に患者の診療情報を共有するネットワークである。運用がはじまるとそれぞれの病院などで管理していた診察記録や処方した薬の情報、検査の結果などを共有することができ、災害発生時などにかかりつけの病院以外で受診する際にも有効に利用できる。今後、『阿波あいネット』に治療の記録ノートの基本情報等を運用すれば災害時でも利用できるのではないかとの情報提供があった。

金山部会長から、電子カルテの共有があればよいが、カードがあれば便利である。今後も治療の記録ノートを上手く利用する方法も検討していただきながら利用していただきたいとの要望があった。

中東委員から、徳島県介護支援専門員協会でも治療の記録ノートの配布や説明を行うなど協力していただきたいため、お声かけをしていただきたいとの要望があった。

金山部会長から、患者さんが安心していただけるように診療連携を深めていただきたいとの要望があり閉会となった。